

平成 19 年度第 1 回(通算第 34 回)「市民の皆さんとランチで対話」概要

団 体 名	緑の景観を考える会
開 催 日 時	平成 1 9 年 4 月 1 8 日 ( 水 ) 正 午 ~ 午 後 1 時
開 催 場 所	二ツ井町庁舎 庁議室
出 席 者	緑の景観を考える会 5 人 (能代市：市長、二ツ井地域局長、地域局建設課長、道路河川課長、同課長補佐、地域情報課長)
案 件	能代市の街路樹について 他
会議の概要 (主な発言)	<p>( ...緑の景観を考える会の皆さん ...市長)</p> <p>能代地域のブツ切りにされた街路樹を見てどう思うか。 白神山地の木が切られると大騒ぎになるが、街路樹に対しては無頓着。 市では、街路樹は「剪定」でなく「枝打ち」というが、市民生活や景観を考慮しているのか。樹木との共生として、枝を残してもいいのでは。 市でも、まちづくりでは街並みや景観を考慮しているが、街路樹に関しては知識が足りず、思い至らなかった。 限られた予算や住民理解にも温度差があり、落葉処理に関する苦情も多い。 電線への支障や交通障害を避ける観点から、従来の処理が行われていた。</p> <p>市では工事等を「適正な資格」を持った業者に発注するというが、どこで「適正な技術を持った業者」と分かるのか。その判定審査の有無を伺いたい。 工事発注する際は、一定基準を持つ指名業者に行う。 従来は、街路樹に関しては造園施工管理技士や造園技能士の資格の有無で判定していたが、街並み景観への街路樹のイメージなどがなく、剪定の際の条件提示はなかった。今後、街路樹の位置づけを勉強したい。</p> <p>江戸川区には、街路樹専門の職員がいる。専門職員を育てる考えはないか。 これも、街路樹をどう位置付けるか、検討が必要。 今後は、現地の現況に相応しい剪定方法を考えたい。また、市で目指す街並みの姿を示し、必要な技術の習得を業者に依頼するなど必要。</p> <p>落葉を堆肥化し有効利用する計画はその後どうなったか。住民の一番の苦情は落葉処理で、この対策なしには街路樹のブツ切りはなくなる。街路樹について市民と話し合う場を持たれては。 落葉については、能代公園に集めて堆肥化し、市民に配布している。 市民との話し合いは可能。皆さんから提案があったときや市民の理解を求めるために必要なときはやりたい。 今回の提案については、そのとおりだと思えるところばかり。行政として気づかなかつたし、予算の制約や、住民苦情による落葉対策のため処理してきたの</p>

が現実。意見は、街並み・景観を考えるうえでとても有意義。これを市の課題や目指す方向とかみ合わせていくことが課題。  
一度に全部に対応することは難しいが、提案された意見を参考にして、市民の理解を得ながら、少しずつ努力したい。